

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
TEL 06-6765-8904
FAX 06-6765-8905

吹田・摂津・守口支援学校の 給食再開へ



府教委は早急に客観的・専門的な検証を！

吹田・摂津・守口支援学校の給食調理業務の新たな委託先が決定しました。今回の契約は、競争入札ではなく府教委方針に反する随意規約です。委託先は、府立支援学校において給食調理を請け負っている業者です。また、当該校の委託業者で勤務していた調理員の大部分は、新たな委託会社で雇用されることとなりました。なお、給食は、20日から吹田支援学校で再開されました。25日から摂津支援学校、26日から守口支援学校で順次、再開される予定です。

給食再開にあたって

給食再開までの期間、「デリバリー弁当」や家庭から持参の弁当など、子どもや保護者、教職員に大きな影響と負担がありました。9月11日から、メニューや味付け等多少の改善はありましたが、「冷たいことには変わりはない」「ごはんが固いので、お茶を飲むように言葉がけをしている」「中学部や高等部の生徒には量が少ない」など、引き続き困難な状況が続いています。

給食再開のめどがたったことに対して、教職員からは、「早く再開できてよかった、安心した」という声があり、給食が再開された学校では、子どもたちが「温かくて汁物がある給食を喜んでる様子」が大障教に報告されています。一方で、給食再開にあたって業者が変更となるため、栄養教諭には多大な負担がかかりました。通常の契約更新時よりも短縮された日数で、試作や準備を進める必要があります。安全・安心な給食実施に懸念が生じます。学校給食は、子どもの「いのちと健康」に直結するものであ

客観的・専門的な検証を

この間、大障教では、給食の民間委託化に関する「仕様書」の問題点を度々指摘してきました。今回の事態に関わって言えば、契約時に結ぶ「支援学校調理業務委託仕様書」で「代行保証」の項目があります。しかし、それが全く機能しませんでした。また、年2回、会社に対して業務評価を行う機会があり、栄養教諭による毎日の記録に基づき、「O×評価」で、「X」を付けても改善されない実態があります。このままでは、同じ事態が起きる可能性は否定できません。

大障教は、緊急対応として「仕様書」について規制緩和を行った2017年前のものに早急に戻し、「安全・安心」な給食を安定的に提供するために、現場の声を反映した「仕様書」に改善することを要求します。また、今回の事態について、当該校の分会では、教職員の意見集約のとりくみを予定しています。大障教として、府教委に対してあらためて、「府立支援学校の給食調理業務民間委託」の是非について、客観的・専門的な検証を強く要求します。



り、緊急的な契約とはいえ、「安全・安心」が保証されなければなりません。また、調理員全員が継続雇用されていませんし、経営破綻した「ホーユー」の給料未

払と契約解除により、生活に大きな影響が及ぶ事態にもなっています。一刻も早い給食再開をめざして、他県では「県の直接雇用」という選択をしたところもありました。報道によると、宮崎県内では、特別支援学校など県立学校7校が「ホーユー」と契約し、給食を提供していましたが、業務の停止を受け、9月9日付で契約を解除し、宮崎県が調理員を直接雇用することになりました。

大障教ホームページアドレス <http://fc06631220171211.web2.blks.jp/> Eメールアドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp

書記局の FUSHIJIU

FUSHIJIU

みなさんは「組合」にどのような印象を持っていますか？23歳の時に夢であった「先生」に採用され、大好きな子どもたちと過「せる」学校の日々に充実・感謝の思いでいっぱいだった初任の頃を今でも鮮明に覚えている。当時の私は、目の前の子どもに自分なりの情熱と信をもって関わっていたら、「それでOK」だと思っていた。

初任1年目、職場の先輩教員より組合（大障教）への加入を呼びかけられた。恥ずかしながら「組合」について全く知識のなかった私は、「組織や自分たちの都合の良いように行動し文句を言う人たち」という企業の「御用組合」のような印象を勝手に抱いており、お誘いはお断りしていた。

しかし、何度も対話する中で、組合について「教は力」。一人では変えられないことも、みんなの力が集まれば変えていくことができる」という話を聞いた。そこから職場を見渡してみると、職員会議で子どものことについて真剣に討論する先生、子どもの成長・発達のために全力で教育実践に励む先生等、自分の目で見てステキだなと思う人が皆組合員であったことで少しずつ組合に魅力を感じるようになった。初任を終える頃、一人の力の弱さを痛感し、子どもの教育に責任を持つて奮闘する組合の先生方と一緒に障害児教育に従事したいと思い、組合への加入を決意した。

気付けば今年で教員生活21年目。仲間とつながりあい学びあってきた組合での20年間は、私を成長させてくれたかけがえのない「宝物」だ。憧れた先輩教員が呼びかけてくれたように、私もこの「組合（大障教）」の魅力を語り、仲間と手を携えていきたい。

「集まれば元気 語り合えば勇気 仲間が増えれば力」



2023年度 大障教女性部総会



ができましたが、残念ながら定足数には至らず成立しませんでした。参加された方々からは「他校の様子を生る声で聞けるのは貴重機会でした」などの感想や「集まることの意義を感じた」という意見をたくさんいただいています。今回参加できなかった方も次回以降、参加していただくを心待ちにしています。

(女性部 荒木佳子)

7月1日(土) 大阪府教育会館にて女性部総会が開催され、各職場での問題や女性部の活動について活発に討論が行われました。経過報告では

「産育休を取得される方に、おめでとうと言いたくても代替講師が来るのかという不安

が先立ってしまふ」「小学部の入学者が増加し6人の児童を2人で担任することも多く毎日悲鳴をあげている」「毎年病休を取る方がいるが、代替講師が見つからず、周りが疲弊してしまふ」などの声がありました。

遇改善、子の看護休暇の拡充、寄宿舎教員の採用選考試験の実施、寄宿舎教員にも再任用3日制度を、教職員定数の標準法を変えて余裕のある教員配置を、病休から休職への手続きに診断書は一通で認めてほしい、短時間勤務を育児中の方だけでなく必要な方(病

休明けまもない方、不妊治療中の方など)が取得できるように、栄養教諭の免状を管理栄養士の方が取りやすいように、教員の職場環境を魅力あるものにして大阪府で教員を希望する人が増えるように、などの発言がありました。

忙しい毎日ですが、メッセージ

今年度の女性部総会では、たくさん意見交換をすることが

つながり 交流することを大切に

2023年度 大障教青年部総会



が始まったことなどが報告され、各分会からも歓迎する声がありました。どちらもまだ不十分な点があり制度の拡充を要求していく必要があります。

7月8日(土)に、2023年度の青年部総会が開催されました。各分会でのお声かけやご協力により、無事成立することができました。ご参

加いただいたみなさん、ご協力いただいたみなさん、本当にありがとうございます。今年度の総会も、学習会を行わず、交流(各校の近況報告)を中心に進めていきました。現地での参加だけでなく、オンラインでの参加も可

「つながる・交流する」ということを大切に、交流企画や学習会などを催すことができました。そうした取り組みに参加してくれた青年の先生たちからは、「悩みを聞いてもらえて安心した」「また来ようと思った」「月曜日から頑張ろうと元気をもらった」と感想が寄せられていることを報告しました。今年度は、新型コロナウイルス感染症が第5類に移行しましたが、感染対策を継続して行いつつ、これまで以上に青年部活動を企画・取り組んでいきたいと思

います。加えて、昨年度の原因水爆禁止世界大会に青年部から5名参加したこともあり、あらためて平和への関心の高さが伺えました。議案書の中でも、「いま、平和へと進む先導ができるのも教育です。平和と愛が決して贅沢品にならないように、できるところから、子どもたちと一緒に平和について考えていきたいと思います」と平和教育への思いが溢れていました。

参加された方からの近況報告や交流では、「先生の穴あきが続いている」深刻な現状が話され、「これで子どもの安全確保ができるのか」という心配の声や、「一斉定時退庁日が設けられたが、業務は減っておらず、持ち帰り仕事が増えた」という働き方改革に関する話も出ました。全てに参加の方々に共通していたのは「大変な状況ではあるが、やっぱり子どもと関わっている時間が一番楽しい」ということでした。そこに教師の魅力を感じ、奮闘する姿を交流できたこと、とても良かったと思います。

最後に新しい青年部常任メンバーを紹介し、気持ち新たに頑張る決意を確認しました。参加された方からは「今年も現地参加ができてよかったです。参加の人数も多く、いろいろ各学校のことが知れてよかったです」という感想が寄せられました。

各分会からは、「コロナが5類扱いとなりプールや宿泊学習などが行われるようになったが、経験している人が少なく大変である」「働き方改革で定時退勤日が設けられたが、早く帰るために休憩時間にも仕事をしようになり、本来の意味での改革になっていない上、教職員同士のコミュニケーションをとる時間がな



オンライン併用で交流しました

まず議案書提案ということ

で、昨年度の取り組みの報告や、今年度の取り組みの紹介などを共有しました。昨年度はコロナ禍でありながらも

参加された方からの近況報告や交流では、「先生の穴あきが続いている」深刻な現状が話され、「これで子どもの安全確保ができるのか」という心配の声や、「一斉定時退庁日が設けられたが、業務は減っておらず、持ち帰り仕事が増えた」という働き方改革に関する話も出ました。全てに参加の方々に共通していたのは「大変な状況ではあるが、やっぱり子どもと関わっている時間が一番楽しい」ということでした。そこに教師の魅力を感じ、奮闘する姿を交流できたこと、とても良かったと思います。

最後に新しい青年部常任メンバーを紹介し、気持ち新たに頑張る決意を確認しました。参加された方からは「今年も現地参加ができてよかったです。参加の人数も多く、いろいろ各学校のことが知れてよかったです」という感想が寄せられました。

各職場で青年の先生たちが孤立してしまわないように、また青年の先生たちの拠り所となるように、今年度も青年部活動に取り組んでいきたいと思ひます。ぜひ、ご参加お待ちしております！

(青年部 奥 正行)